

生命と時間

先週の学校公開（道徳授業地区公開講座）で「生命」をテーマに全学級で道徳科の授業を公開しました。そして、昨日の休み時間に行った「抜き打ちの避難訓練」で・・・休み時間の延長となってしまう・・・緊張感のない訓練であったため、本日昼休みにリベンジ抜き打ち避難訓練を実施しました。全ての生徒の「生命」を守るために全力で取り組んでいきたいと思えます。

さらに、本日の全校集会で「生命」について、以下の話をしました。

中央区築地にある聖路加国際病院名誉院長をされていて2017年に105歳で亡くなられた日野原重明さん。生涯現役で医師として活躍した日野原先生の話や書籍には、医師としての豊富な経験から、ものすごい説得力があります。ぜひ日野原先生の本を読んでみてほしいと思えます。日野原先生が亡くなられる直前に書いた「命とは君たちが持っている時間である」という話を一部抜粋して紹介します。

「自分が生きていると思っている人は手を挙げてごらん」と言ったら、全員が挙げるんです。「では命はどこにあるの」って質問すると、心臓に手を当てて「ここにありますが」と答える子がいます。僕は聴診器を渡して隣同士で心臓の音を聞いてもらって、このように話を続けるんです。「心臓は確かに大切な臓器だけれども、これは頭や手足に血液を送るポンプであり、命ではない。命とは感じるもので、目には見えないんだ。君たちね。目には見えないけれども大切なものを考えてごらん。空気見えるの？酸素は？風が見えるの？でもその空気があるから僕たちは生きている。このように本当に大切なものは目には見えないんだよ」と。それから僕が言うのは「命はなぜ目に見えないか。それは命とは君たちが持っている時間だからなんだよ。死んでしまったら自分で使える時間もなくなってしまう。どうか一度しかない自分の時間、命をどのように使うか、しっかり考えながら生きていってほしい。さらに言えば、その命を今度は自分以外の何かのために使うことを学んでほしい」

Time is Life「時間は命」。

この夏休み「生命」そして「時間」を大切に過ごしてください！

最後に「生命」の話と共に、夏休みを前に、「性暴力」について話をし、右の相談窓口の記載のある生徒向け相談シートを配布しました。

残念ながら大人から子供への性暴力は実態として存在しています。

学校内では、教職員等が指導上やむを得ず生徒から個別に相談等を受け、二人きりになる場合は、管理職に報告することを徹底するとともに、SNS等での個人的なやり取りを禁止しております。また、指導上必要な補助や介助、生命身体を守るための危険回避等で身体に触れる場合を除き、生徒に対する不必要な身体接触を行わないよう指導しています。

性暴力には、同性による性暴力や子供が性暴力と認知できないものもあり、「まわりの大人」が気を配る必要があります。夏休みに、各家庭で様々な事について語り合う機会をもってください。そして、少しでも・・・「おかしいな」「モヤモヤするな」「イヤだな」と感じる事があれば、学校に相談いただくか、相談窓口等を活用してください。

今後も生徒の「生命」心と身体を大切に守り、充実した中学校生活を送れるようにしていきたいと考えています。



児童・生徒を教職員等による性暴力から守るための第三者相談窓口

（保護者の方も相談できます。）